

低温処理が不要なソラマメ品種「鹿児島4号」の播き直し後の収益性

「鹿児島4号」は低温処理なしで、強風被害後に容易に播種が可能で、10月下旬播種で7割の収益が確保可能

背景・目的

- ・ 9～10月の生育初期の高温、乾燥、台風被害における欠株や欠損により大幅な減収が懸念
- ・ 慣行品種は開花促進のため催芽後に低温処理が必要で、欠株対応には多くの低温処理苗の準備が必要
- ・ 低温処理不要品種における播種期毎の生育、収量及び収益への影響を検討

成果の内容

- ・ 低温処理不要品種の開花節位は低節位の4節前後で慣行品種と同等
- ・ 慣行(9月上旬播種, 1月上旬収穫開始)に対して

- 9月中旬播種 : 収穫開始が1月下旬
粗収益は同程度
- 9月下旬播種 : 収穫開始が3月上旬
粗収益は9割確保
- 10月上～下旬播種 : 収穫開始が3月下旬～4月中旬
粗収益は7～8割確保

表1 播種期毎の開花節位, 収穫開始期

播種期 (月/日)	開花 節位 (節)	収穫 開始期 (月/日)
慣行「唐比の春」		
9月上旬	9/10	4.5
低温処理不要「鹿児島4号」		
9月上旬	9/10	4.7
9月中旬	9/19	4.4
9月下旬	9/28	4.1
10月上旬	10/8	4.5
10月中旬	10/18	4.1
10月下旬	10/29	3.8

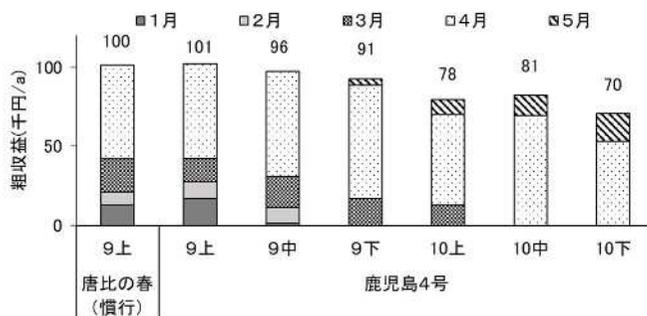
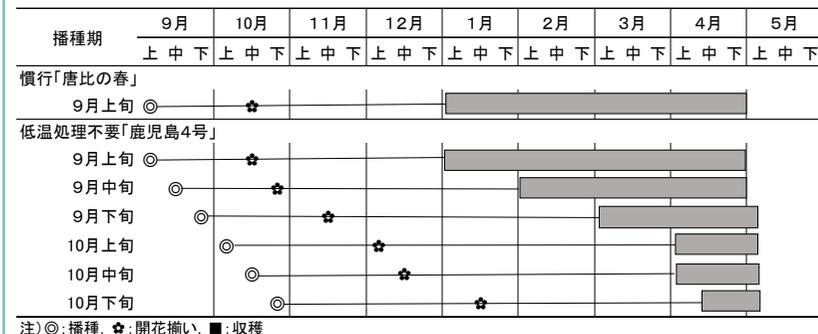


図1 播種期毎の粗収益

注) 棒グラフの上段の値は、慣行対比

期待される効果

- 強風等の欠株被害後に播き直す場合、
- ・ 播種期毎の開花期, 収穫期の目安として活用可能



- ・ 安定した収量や収益の確保が可能

- 普及対象・範囲
ソラマメ生産者

鹿児島県農業開発総合センター
園芸作物部野菜研究室